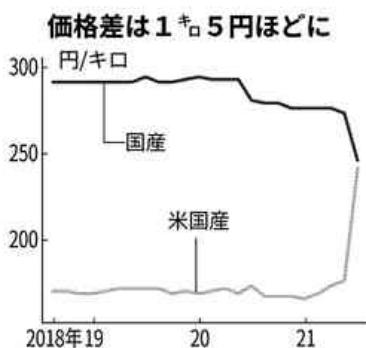


米国産米と国産米の価格差が縮んでいる。農林水産省が9月下旬に実施した入札では、米国産のうち精米中粒種の売り渡し価格は前年同月比4割高かった。一方、国産の2021年産米の卸値は下落基調にある。小麦や油などが高騰する中、米国産を使ってきた日本国外食業者などは材料費を抑えるため国産への切り替えを視野に入れる。

「価格が上がっている米国産を無理して買う必要はない」（大手コメ卸の幹部）。日米の価格差は精米で1kgあたり5円ほど。18年10月に約122円だった差は今年9月以降、急速に縮まっている。

米国産の価格が急騰している。9月下旬に農水省による売買同時入札（SBS）で日本政府によ

コメ、内外価格差が縮小



(注)米国産はうるち精米中粒種の
売り渡し価格
国産は相対取引価格の全銘柄平均
(精米した場合)

(出所) 農林水産省

（ＴＰＰ）による別枠で
あるオーストラリア産の
輸入量の40倍に相当す
る。「豪州産は生産量が
安定しないため外食産業
は米国産を使う傾向があ
る」（コメ卸の担当者）

外食業者、切り替えも視野

米国産4割高、国産は下落基調

足元ではカルローズが国産価格を上回る例が出た。都内の専門商社は10月、弁当製造業者との商談で20年産カルローズを東北地方のある新米を200円で提示。前年同期にはカルローズが235円、東北地方のあるコメは265円で価格を設定していた。弁当製造業者は国産に切り替えた。外食店の反応は今のところまちまちだ。国産と米国産をブレンドして使用する吉野家ホールディングスは「今後もカルローズは仕入れの選択肢に入っている。現時点では国産への切り替えは決めていない」(広報担当者)と動向を注視する。

九州で総菜チャーンを開展するヒライ(熊本巾)は国産に加え、年約30

受けて、平井浩一郎社長は「米国産が国産の価格を上回り続けるなら、国産への切り替えも考えたい」と語る。

需要家は仕入れを様子見し始めた。10月下旬のSBSではカルローズの落札はなかつた。入札は年に複数回実施される。「米国産在庫が十分にあり輸入米の購入は慎重に判断する」(大手コメ卸の役員)

米国産の高値は続く見通しで、現在は一部の業者間取引にとどまる「米国産高・国産安」の現象が広がる可能性がある。コロナ禍から回復途上にある外食産業はコスト削減のため、米国産を買ire控える動きが広がりそうだ。(小川望)